

畑ワサビ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	べ と 病	白 さ び 病	墨 入 病	茎 腐 病	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ナ ト ビ ハ ム シ	サ ワ ル ソ ウ リ ム イ シ ロ
モンカットFL40	7		30	2				◎				
アミスター20FL	11		7	2		◎						
ランマンFL	21		7	2		◎						
ロブラール水	2		*a	1			◎					
			*b	3			◎					
アリエッティ水	P7		21	3	こ							
ダイアジノン粒5	1B		75	2						ワ		◎
トレボン粒	3A		*c	1							◎	
			14	1							◎	◎
アドマイヤーFL	4A	劇	7	3					◎			
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		3	3					◎		◎	
プリロソソ粒	28		21	1						◎		◎

*a:定植時 *b:定植後(但し収穫30日前まで) *c:植付時
こ:畑わさび(根茎)での登録 ワ:ワサビクダアザミウマ

畑ワサビ (野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	育苗期	・発病株はただちに抜き取る。	
墨入病	定植前	1. 苗は無病株より株分けする。切口に黒い輪紋のないものを選ぶ。 2. 実生苗を利用する。	感染母茎からの苗伝染が最も多い。また、害虫などの食害痕が菌の侵入口となる。
	定植時および定植後	・次の薬剤を処理する。 ロブラール水和剤 定植時：1000倍で20時間苗浸漬 定植後：500倍液を3ℓ/m ² 灌注	
白さび病	植付前	・無病苗を植付ける。	若い葉ほど侵されやすい。5～6月および9～10月に発生が多い。
	生育期	1. 発病葉や花梗は早めに処分する。 2. 次の薬剤のいずれかを初期に散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ランマンフロアブル 2000倍	
べと病	植付前	・無病苗を植付ける。	若い葉ほど侵されやすい。5～6月および9～10月に発生が多い。 *野菜類での登録。薬害回避のため試し掛けする。
	生育期	1. 発病した葉や花梗は早めに処分する。 2. 次の薬剤のいずれかを初期に散布する。 ドイツボルドーA(水)* 500～1000倍 Zボルドー(水)* 500倍	
軟腐病	植付前	1. 無病苗を使用する。特に割口に変色のないものを選ぶ。 2. 実生苗を利用する。 3. 地温の上昇を防ぐ。	*野菜類での登録。薬害回避のため、試し掛けする。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを発生初期に散布する。 コサイド3000(D F)* 2000倍 ジーファイン水和剤* 1000倍 ドイツボルドーA(水)* 500～1000倍	
萎縮病	育苗期	1. 種子は無病株から採取する。 2. 苗床に病株を持ち込まない。 3. アブラムシ類を防除する。 4. 発病株は抜き取る。	タバコモザイクウイルス(TMV)、キュウリモザイクウイルス(CMV)およびカブモザイクウイルス(TuMV)の3種のウイルスによっておこる。 TMVは種子、種茎、汁液などで、CMV、TuMVは種茎、アブラムシ類によって伝染する。
	植付前	1. 苗は健全な実生苗、健全株から株分けした苗、又はメリクロン苗を用いる。 2. アブラムシ類を防除する。 3. 発病株は抜き取る。	

畑ワサビ (野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アトマイヤーフロアブル 4000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍 オレート液剤* 100倍 粘着くん液剤* 100倍	*野菜類での登録
カブラハバチ	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 幼虫は見つけ次第捕殺する。	
コナガ	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 施設栽培ではコナガコン△を天井に近い位置に100～400m/10 a (100 mリール)となるよう固定する。 3. 次のいずれかの薬剤を1000～2000倍で散布する。 エスマルクDF* ゼンターリ顆粒水和剤* フローバックDF*	△フェロモン剤の使用に当たっては可能な限り広範囲での使用が望ましい。 *野菜類での登録
アオムシ	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 次のいずれかの薬剤を1000～2000倍で散布する。 エスマルクDF* ゼンターリ顆粒水和剤* フローバックDF*	*野菜類での登録
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 次の薬剤を散布する。 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向がある。 生育初期に加害されると芯止まりとなる。 *野菜類での登録
ナトビハ ムシ	育苗期 生育期	1. 育苗施設では開口部に成虫の侵入を防止する防虫網を設置する。 2. 幼虫は見つけ次第捕殺する。 3. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤 2000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍 トレボン粒剤 3kg/10 a	
その他の病害虫		灰色かび病、うどんこ病、キスジノミハムシ、ヘリジロカラスノメイガ(シママシ)、ナガメ、ヒメナガメ	